

大空 (生徒・保護者向け) 50号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 校長通信

令和3年10月28日(木)

学校の品格—生徒会総務交代式挨拶—

□本日の概要

- 第94期生徒会総務の皆さんは、コロナ禍という試練の中、朝陽祭を始め大きな行事を成功させた。交通安全ミーティングや、生徒総会での要望を受けて女子生徒のスラックスを導入した。
- 95期生徒会は、今までの常識にとらわれず、新しい発想を持って生徒会活動を開拓して欲しい。改革への挑戦をたくさんして欲しい。
- 改革の主体は生徒一人一人である。西校プライドを持って、自分が主体となる意識を持って欲しい。
- 西校プライドとは、数値等に置き換えることのできない、学校を支える雰囲気である。この「学校の品格」を高めてほしい。
- 本日のNFC 主体性 行動力 自他肯定力

□第94期生徒会総務の皆さんへ感謝

94期生徒会総務の皆さん。本当にご苦労様でした。94期は93期からの流れを引き継ぎながら、様々な学校改革に取り組みました。各種委員会のシステム改革に取り組み、委員長を中心に主体的に動けるように改善しました。また、PTA役員との「交通安全ミーティング」に参加し、交通立ち番をしたPTA役員の意見を直接聞き、交通安全についての意識を高めるため、生徒会からの通信を発行したり、交通安全教室の運営などに取り組んだりしました。また、生徒総会では、女子生徒のスラックス導入の要望を汲み取り、先生方やPTA役員等と協議を続け、スラックス導入を成し遂げました。

そして、最大の行事は朝陽祭でした。感染状況が最悪となった第5波の中で本校の最重要行事である朝陽祭を実施するという試練に挑みました。簡単ではありませんでしたが、感染対策に留意しながら取り組み、企画の殆どを中止することなく見事成功させました。

94期は、コロナ禍という制約の中での学校行事の企画・運営に柔軟なアイデアで多くの新しい形を作ってくれました。特にリモートでの活動の形を新しく作ってくれたのは94期の成果の1つです。前例がない活動が多く挑戦の連続でしたが、臨機応変に対応してくれました。また、話し合いでは、学

年や中・高のつながりを作りたいという気持ちの強さを感じる意見がよく出ていたそうです。学校はもちろん、生徒1人1人の学校生活を充実させるために、一生懸命に活動する生徒会は本当に素晴らしかったです。お疲れ様でした。

□第95期生徒会への期待

95期の皆さんも、コロナ禍の厳しい状況であることは変わりません。皆さんも、今までの常識にとらわれず、新しい発想を持って生徒会活動を開拓して欲しいと思います。コロナ以来、私たちには「例年」という言葉がなくなりました。例年通りという考え方では何も進化しません。様々な意見を取り入れ、今までとは全く違う視点を持ち、様々な活動を見直すことで、生徒会活動はもっと充実します。改革への挑戦をたくさんして欲しいと思います。

皆さんには取り組んで欲しいことがたくさんあります。校則や学校生活の見直しを継続し、新しい時代の流れに合った西高校を作りあげてほしいと思います。校則の見直し、在校生用の夏のスラックスの検討に加え、創立50周年に合わせて、令和5年入学生から制服の全面改定を行う予定です。残念ながら新制服は皆さんが着用することはありませんが、新しい制服のあり方を考えるのは皆さんです。自分たちに相応しい、自分たちが誇りを持って身につけることができる制服のあり方を考えてください。

□西校プライドを持つ

1学期の総務交代式でも話しましたが、私は、皆さんに、主体的に生きる人になって欲しいと思っています。学習面でも生活面でも、指示を待つのではなく、自ら計画を立て、実行する力が重要であり、そのことを意識して、昨年「西校プライド」「自走できる西校」という言葉を繰り返し伝えていきます。学校改革において生徒会の力が大切であるのは言うまでもありませんが、主体は生徒一人一人です。誰かにやってもらうのではなく、自分が主体となる意識をもっと持ってください。

生徒が主体となり、一人一人の意識が高まれば、学校はもっと自由で、創造的な場となります。勉強面でも、テストや課題があるから勉強するのではなく、主体的な学びになります。生活面でも、規則な

どは学びの場としての学校の安全と規律を維持するための最小限のものですむはずです。自由な学校とは、規律がないのではなく、他者から指示されなくても、自主的に判断することができる学校ではないでしょうか。

〇トップ校の品格

宮崎西高校は宮崎県を代表する学校です。しかし、まだ創立48年の若い学校でもあります。他県を代表する学校は、進学面の実績だけでなく、数値等に換算できない、無形の学びの伝統を持っています。

私は大学時代、広島大学教育学部附属高校で教育実習をしました。この高校は宮崎県知事の河野俊嗣（こうのしゅんじ）知事の母校であり、東大を始めとする難関大学に多数が進学する名門ですが、いわゆる受験指導は一切しません。しかし、授業では、自分の頭で考え、徹底的に議論するということが日常的に行われていました。私は教育実習の時、現代詩の授業をしたのですが、私が指名した訳でもないのに授業の途中で生徒が突然手を挙げて、「先生、私は別の解釈があります。」と自説を一生懸命語り始めたのです。指導計画にない発言に実習生の私は焦りました。すると、今度は別の生徒が手を挙げて「いや、そうではなく、こんな解釈ができるんじゃないか」と自分の考えを語るのです。オロオロする私の前に、教室は勝手に議論の海になりました。「私はこう感じた」「私はこう思う」という発言が相次ぎ、私は生徒の発言を黒板に書き留めるので精一杯でした。生徒は次々に発言するのですが、それでいて雑談のような無秩序にはならず、人が発言するときにはちゃんと聴く態度が身につけていました。本来は1時間で終わる授業計画でしたが、そのまま終わるわけにもいかず、次の時間にもその詩の授業に取り組みました。綿密に教材研究をしていったつもりですが、やはり議論は白熱、結局たった12行の現代詩を2時間かけて徹底的に議論しましたが、結論は出ず、最後にそれぞれの感想を書いて提出するように指示して終わってしまいました。

授業としては失敗ですが、私自身は非常に爽快で、感動した体験でした。私のような実習生のつたない授業にもかかわらず、生徒達は手を抜かず、真剣に議論をしてくれました。苦し紛れに提出を依頼した感想文も、平常点になる訳でもないのに、わざわざ実習生控え室まで届けてくれたのです。（授業でフィードバックできないので文集を作りました。）

私は、生徒達の学びに対する姿勢や、間違いを恐れず自分の考えを发表或し、自然と議論が沸き起こる態度に感動を覚えたのです。ちなみに、この学校は、学問に関しては妥協しませんでした。いわゆる日々の宿題のようなものはありませんでしたが、

大学の附属高校ですので実験的な授業が多く、単元の節目毎に、レポートや感想文などが課されていたと思います。また、生活面の規則は緩やかでしたが、学びの雰囲気から逸脱している生徒は誰もいませんでした。

広島大学教育学部附属高校は、大学の附属高校ならではの品格がある学校でした。宮崎西高校もこのような学びに対する姿勢はありますので、意識すればもっと伸ばすことができると思っています。

様々なオンライン交流会などに参加した人たちは、他県のトップ校の生徒の意識の高さを知っていると思います。勉強面でも、生活面でも、自主的に取り組み、自分たちで自分たちを高めている高校生はたくさんいるのです。皆さんにも絶対できます。

西校プライドとは、数値に置き換えることができない、学校を支える雰囲気です。それは生徒会役員が創るのではなく、一人一人が主体的に創るもの、いわば「学校の品格」です。

令和5年には本校は50周年を迎えます。50周年を一つの節目として、本校の品格を高めていきましょう。私は、皆さんを信頼しています。



94期生徒会総務の皆さん



95期生徒会任命式